

レーモンド設計群馬県高崎市施設視察 2021. 6. 11(金)

～近代建築の父アントニン・レーモンドゆかりの施設を訪ねて～

一般社団法人茨城県キャンプ協会「レーモンドゆかりの施設をPRする会」は、2021年6月一般社団法人茨城県キャンプ協会3名と共に群馬県高崎市を訪問し、同エリアのアントニン・レーモンドが設計した施設視察を実施した。1日という限られた時間の中で、群馬音楽センター、高崎市美術館に敷地にある旧井上邸など2施設を視察。施設内部、アントニン・レーモンドギャラリー、旧井上邸の内部などレーモンドの日本での生活、高崎における活動の歴史について学びを得た。

日本国内では多くの建築財産を遺したアントニン・レーモンド。その中でも国内外から注目される高崎市の施設が、県や市、関係者らによって観光と上手く広報されていることを現場で直接目撃し、見学者は大いに刺激を受けた。今回の視察で学んだ関係職員の熱意溢れるレーモンドゆかりの2施設をここで紹介したい。

●群馬音楽センター・高崎市景観重要建造物指定第2号

当建造物は1998年には建設省施行50周年記念事業「公共建築百選」の一つに選定され、ドコモモ(近代建築の保存と調査を行う国際組織)により1999年、「文化遺産としてのモダニズム建築20選」に選ばれるなど、日本国内はもとより世界から注目されております。



<群馬音楽センター・アントニン・レーモンドギャラリー視察 11:00~12:00>



群馬音楽センターの模型



旧井上邸(高崎市美術館)



ノエ夫人デザインの傘立てと灰皿



1961年・建設の様子



支柱のない階段



レーモンドが原画を制作した壁面



ガラス張りのロビー



どの席からも良く見える観客席



広々とした舞台



茂木技術課長様と会長（群馬音楽センター前にて）

●高崎市美術館（写真左）、旧井上房一郎邸・高崎市景観重要建造物指定第1号（写真右）

旧井上房一郎邸は、高崎市の文化振興に大きく貢献した井上房一郎の自邸として1952（昭和27）年に建てられました。音楽センター設計者の建築家アントニン・レーモンドの建築スタイルを取り入れたもので、戦前・戦後を通じて交流した井上とレーモンドの友情の証でもあります。2010（平成22）年4月1日から高崎市が高崎市美術館併設の施設として一般公開しております（高崎市美術館の開館日に公開しています）。<参考：高崎市美術館ホームページ>



<高崎市美術館・旧井上邸視察 14:00~15:30>



麻布のレーモンド邸と同じ工法



暖炉のある居間



床と庭の高さがほぼ同じ



レーモンド邸では食卓にもなったパティオ



レーモンドとノエミ夫人



塚越館長様と和室から庭を眺める



庭との段差がない構造(笠原様より)



高崎市中心部にあり観光名所に



北側は当時の玄関。
歴代総理が訪問した逸話も



塚越潤館長様と会長(レーモンド建築の基本をご教授いただき、ありがとうございました。)